

議会だより

つなまち

NO.157

2004年10月18日



稲刈りをする中津小の児童

9月定例議会

- 児童手当の対象年齢引き上げ ②
- 平成15年度決算の認定 ④
- 一般質問 自律の町づくりを質す ⑤
- 委員会レポート 未来型福祉のかたちに学ぶ ⑩
- シリーズ 私もひと言 ⑫

発行：新潟県津南町議会 責任者：議長 高橋 満 男
町のホームページでも議会だよりをご覧になれます。

請願



地域住民にとって大切な郵便局

④アメリカ産牛肉の輸入解禁に反対する意見書を求める請願

(請願者) 農民運動新潟県連合会
代表 町田 擴 採択 意見書提出
安全対策を最優先し、BSEを一掃することを基準にした日本の検査体制こそ世界に誇れるものであり、「日本と同水準の全頭検査体制や特定部位の除去等の実施がない限り、アメリカ産牛肉の輸入禁止を継続すること」を求める。

⑤政府米の買い入れと備蓄を充実させる意見書を求める請願

(請願者) 農民運動新潟県連合会
代表 町田 擴 採択 意見書提出
政府は、米の受給と価格の安定に責任を果たすこと。また、いまだに放出し続けている政府米の売却を中止、政府自身が決めた「備蓄計画」に見合う米の買い入れをただちに実施することを求める。

⑥地方交付税の財源保障機能の縮小反対と総額確保に関する意見書

津南町議会議長 高橋満男 意見書提出
1、地方交付税の財源保障機能を縮小することなく、財源の調整、保障の両機能を堅持し、その内容の充実を図ること。
2、地方財政運営に支障をきたすことのないように、地方交付税総額については平成16年度の大幅な削減前の水準を確保できるよう措置すること。

①郵政事業の経営形態堅持に関する請願

(請願者) 郵政事業を守る津南町町民会議
代表 山本三雄 採択 意見書提出
郵政事業は国民生活の安定向上と福祉の増進に大きく寄与してきた。今後とも現行の国営、公社の経営形態を維持し、郵政事業の分割、民営化を行わないよう強く要望する。

②公教育として私立高校を守り発展させるため、私学助成の増額を求める陳情書

(陳情者) 新潟県私学の公費助成をすすめる会
代表 宮下 弘治 採択 意見書提出
日本の公教育は、公立、私立の両輪によって支えられ、発展してきた。教育条件の向上、改善、父母負担の軽減及び私学経営の健全化をめざす私学助成制度を尊重し、その堅持を求む。

③「食料、農業、農村基本計画」見直しに関する陳情書

(陳情者) 食とみどり、水を守る新潟県民会議
代表 目黒吉之助 採択 意見書提出
各地域で中核的な農家と地域資源を共同で支える家族農家が安定的に共存しない限り、自給率の向上に結びつかない。基本計画の見直しにあたっては「食料、農業、農村基本法」に基づき食料自給率の引上げに結びつく施策を強く要望する。



食料自給率の引き上げを

陳情

9月定例議会

平成16年第3回定例議会が、9月7日から10日までの4日間開催され、11名の議員が一般質問を行いました。
議案は、平成15年度一般会計、特別会計の決算認定、平成16年度補正予算、請願、陳情など35議案を審議し可決しました。

一般会計	6,260万7千円を追加 58億1,205万8千円
介護保険特別会計	3,081万6千円を追加 10億7,201万4千円
簡易水道特別会計	4,117万2千円を追加 2億5,879万2千円
下水道事業特別会計	1億270万円を追加 8億3,446万3千円
農業集落排水事業特別会計	235万1千円を追加 3億2,154万3千円

児童手当小学校 三年生まで 引き上げ!!

補正予算

一般会計では、児童手当の支給対象年齢が小学校三年生まで引き上げられ、2、226万円の追加補正となりました。
介護保険においては、1、808万6千円の積み立てがなされました。
簡易水道においては、基金より繰り入れ、維持管理費に補正されました。
下水道事業においては、国庫補助により、管渠整備工事費が増額されました。

グリーンピア津南

グリーンピア津南設置運営事業審査会委員の構成が決まる。
グリーンピア津南の公募型方式による申し込み者の経営内容等を審査する委員会です。
委員構成は町外者の公認会計士1名、国立大助教授クラス1名、町議会1名、商工会1名、農業委員会1名、町公民館1名、町民代表1名合計7名の予定です。

町教育委員会委員

高橋 徹氏の任命に同意
平成16年9月30日で任期満了となる島田寿郎氏の後任に高橋徹氏が任命され同意されました。高橋氏は、東洋大学経済学部卒業、民間会社勤務後高栄理美容室開業、現在JR津南駅、外丸小学校後援会監査委員。

条例制定

津南町情報化推進基金の設置、管理及び、処分に関する条例が制定されました。
津南町の情報化を積極的に推進するために、基金として4、400万円が積み立てられました。



高橋 徹 教育委員

11名が登壇し質す

自律宣言をした 津南町の今後は

町長・新生津南町構築の町づくりを揺るぎない

●草津 進議員

自律で進んでいく強さの意志を込め



森林組合きのご施設雇用の場確保に貢献

15年度の成果(一般会計・全員賛成)

- 保育園通園費補助事業 88件 589万円
- 在宅福祉サービス利用料補助事業 延4,226人 1,026万円
- 要援護世帯除雪費補助事業 154世帯 419万円
- 多目的交流促進整備事業(農と縄文体験実習館建設) 15年度分 2億81万円
- 中山間地等直接支払事業 856戸 1億116万円
- 苗場山麓総合農地開発事業 償還金援助対策事業 3億7,172万円
- 林業経営構造対策事業 森林組合なめこ生産施設 1億9,467万円



一般会計 中学校舎及びびなじよもん建設等で 歳入歳出とも増

本会議に平成15年度一般会計、特別会計決算が一括上程され、決算総額歳入128億4,992万円(前年比3.2%増)、歳出124億5,919万円(同3.6%増)となり、収支差し引き残高3億9,073万円(同9.2%減)となりました。これは給食施設整備、国営農用地再編整備事業苗場地区一括償還や、森林組合なめこ栽培施設等、積極的な事業展開によるものです。

一般会計は、歳入70億9,800万円(前年比8.4%増) 歳出69億3,500万円(同9%増)となり、歳入で前年比増は繰入金(2億2,964万円) 国県支出金(2億9,521万円) 町債(3億1,030万円) 等であり、前年比減は町税(8,325万円) 地方交付税(9,938万円) 等でした。厳しい財政状況下ではありますが、健全財政の基幹は保持されていると認め、全員賛成で認定されました。

特別会計

● 国民健康保険(賛成多数)	● 下水道事業(全員賛成)
歳入 10億2,663万円	歳入 11億449万円
歳出 9億1,227万円	歳出 10億9,221万円
差引額 1億1,437万円	差引額 1,228万円
● 老人保健(賛成多数)	● 農業集落排水(全員賛成)
歳入 16億9,279万円	歳入 6億3,367万円
歳出 16億6,086万円	歳出 6億2,628万円
差引額 3,194万円	差引額 739万円
● 簡易水道(全員賛成)	● スキー場会計(全員賛成)
歳入 3億5,929万円	歳入 8,011万円
歳出 3億4,813万円	歳出 7,377万円
差引額 1,116万円	差引額 634万円
基金繰入 3,890万円	一般会計より繰入額 5,297万円



中学校給食開始



歴史を見つめる信濃川

問 日本一の大河、信濃川の国への直轄を津南町としてどのような形で働きかけを進めているのか。

町長 飯山市から中里村間の39.65kmが中抜けの県管理となつている。一貫して国が行うべき河川である。直轄編入の実現のため飯山市、野沢温泉村、栄村、中里村、津南町で連絡協議会を設立し、国県に強く要望している。

信濃川の国土交通省 直轄編入を

町長 現在合併特例法に基づく合併協議会設置の賛否を問う住民投票の請求がなされているが、本町は今、住民の皆さんと協働して新たな町づくり計画策定を押し進めている。新生津南町の構築に向けた取り組みは、いささかのゆるぎもないところである。

臨時、委託職員の待遇改善を

助役：何らかの形でねぎらう事を考えたい

●村山 久一 議員

退職金の支給と 契約期間の延長を

問 町では各職場で多数の臨時、委託職員が働いており、町内雇用の場として少なからず貢献している。これらの職員の処遇については過去に何人かの議員が一般質問で取り上げ、議論された過去があるが、依然として改善されていない。民間企業ならいざ知らず、同じ町民が行政の同じ職場で働きながら、待遇の面で格段の格差があつて良いのだろうか。低賃金で一生懸命町を支えている人たちの存在を忘れてはならない。特に長年勤めている職員への退職金の

支給と安心して仕事に専念できるように契約期間の延長を強く要望する。

助役 現在非常に労働情勢の厳しいなかで、町民の多くが職を求めており、できるだけ多くの町民を雇用できるように道を開いていかなければならないという基本的な考えがあるなかで、特定の人を固定して雇用すると、一方で職を求めている町民の道を閉ざすことになりかねない。また、地方公務員法の制約もある。退職金については委託職員の委託金のなかで配慮してあるつもりだが、お金で労をねぎらうのは困難であり、何らかの形で労をねぎらうことを考えたい。



保育園用務員さんの仕事はいろいろ

自律をめざす町の基本的考え方は

町長：町民と一体となり地域づくりを

樋口 松雄 議員

この町に生まれ、住んで良かったと思える町に

問 自律に向けその道は厳しいが、行政と町民が一体となり、安心、安全で楽しく生活ができる町づくりのため、舵を取るリーダーと、櫓をこぐ町民が次代の地域づくりのために邁進すべきと思うが町長の考えは。
町長 私の姿勢は就任以来変わらず、町民のために住みよい地域づくりに邁進する。また、自律を目指した将来計画策定とその実現に向け、町民と協働し、自信を持って進める。今後とも積極的な議論と協力を賜りたい。

3町村との合併前提の協議会について

問 今年に入り急に合併を前提とした協議会設置の動きが取りざたされ、既に町、議会共に自律を決め、職員による自律プランの説明会もされ、住民代表と最後の詰めに入っているなか、町民を迷わす行為と思われるがいかがお考えか。
町長 いまいろいろ取りざたされているが、我が町が自律に向けた取り組みは当初からいささかも揺るぎないもので、新生津南町は自律に向けた町づくり、計画策定とその実現に向け邁進するものである。



住民代表との自律推進会議

中津川運動公園の整備計画は

町長：大倉トンネルの残土場所となっている

津端 真一 議員

運動公園整備計画と方向性を



残土が積まれている運動公園

問 夢ある運動公園整備計画が、商工会青年部、スポーツ振興協議会、他の団体から提案されている。芝生をもった運動公園は、生涯スポーツ、子供達の教育、育成の場として必要な施設と考える。整備計画と時期はいつ頃になるのか。整備に向けて、準備委員会を立ち上げられないか。
町長 大倉トンネル工事の残土処理場となっているため、町民の皆さんに迷惑をおかけしている。この秋トンネル工事の入札が予定されており、来年春から工事着工の予定。かなりの年月が予想されるが、一日も早い貫通を望んでおり、国県に要望している。整備計画は、原形復帰の目処がつけば、提案頂いた団体と相談していく。

た。今後の残土は全て運動公園に入れる予定である。早期完成に向け、強く国県に要望していく。

津南町観光施設及び事業について

問 マウンテンパークの今後の営業活動は。
町長 地味な活動ではあるが存続を基本として、学校、自治体に営業している。町民各位の一層の協力を願いたい。

助役の収入役兼務、教育長の非常勤化は

町長：最終的に私が判断

大平 謙一 議員

職員提案の機構見直し、どこまで実現するのか

問 子供の教育が重要視されるなかの教育長の非常勤化、助役の収入役兼務は重大な問題。両役職をどのように考えているのか。
町長 自律推進計画策定の中で職員が問題提起されたもの。全国には助役、又は収入役をおかない市町村が1,003団体あること、地方自治法改正で10万人未満の市も首長が収入役、助役を兼務できるようになった事等を検討したようである。これから幅広い議論、意見を聞き私の判断となる。

基本法の評価と対応は

問 基本法の中間論点の評価と担い手への集中政策、本町の対応は。
町長 食料、農業、農村基本法が成立して5年が近づき目標達成できず、一気に農業構造確立を急ぐものである。中問論点整理担当の企画部会が地方公聴会を開き提言を求めている。本町提出の意見の内容は、担い手だけでなく品目の横断政策、優良農地対策等の他、多様な環境、中山間地への施策を中心としたものである。数値目標を追うばかりに農村政策を忘れ、農業政策だけになっている。



生命を守る、中山間地農業を守る

子育て要求を反映した行動計画で

町長：子育て支援センター開設の検討も

藤ノ木 浩子 議員

子育て要求をどう反映させるか

問 次世代育成対策推進法が制定され、自治体は、子育て支援の「行動計画」策定が義務づけられた。その柱は①仕事と育児の両立支援②男性の働き方の見直し③地域における子育て支援などがうたわれており、子育て環境の充実が求められている。子育てニーズ調査の進捗状況と今後どう進めていくか。また、子育て要求を行動計画にどう反映させていくお考えか。少子化、子育ては、津南の将来にかかわる重要な課題である。役場をはじめ、町内企業、事業所に協力を依頼し、子育てに関する実態調査を実施して計画に反映させてはどうか。
町長 従来から重点事項として、出来る限りの対応してきた。町としては、保健医療福祉計画に定めた他、自律計画策定のなかでも検討をすす



ぼくたちのパワーをみて! みて!!

めている。次世代法の関係では、ニーズ調査の結果分析を行っており、働く女性が大半のなか、子育てに対する支援の要望も出されている。ある施設を利用しての子育て支援センター開設の検討など、ニーズを反映させて行きたいと考えている。計画策定にあたり、町内事業主からも検討に加わっていたら、実態把握の検討もし、反映していきたい。

新規農業参入事業の成果と取り組み

町長：農業生産と地域活動に大きな成果

●河田 強 一 議員

就農事業の現状と今後の取り組みは

問 Iターンによる就農事業、厳しい農業環境のなかでの現状と成果、今後の取り組みについて伺う。

町長 農地の有効活用と後継者対策として、平成7年より新規農業参入者の受け入れを始めた。本年度まで20名を受け入れている。彼らの本町農業生産に力める役割と地域活動には大きな成果があると考えている。明確に農業を離れた人はいないが、一定の現金収入も必要であり、得意な技術を生かし収入を得ている方も2名ほどいるが、この地で暮

らしをたてるには必要。今後の受け入れはファームハウスの入居状況も考慮しながら、年間1〜2名の受け入れを考えている。また、支援策については補助事業を活用しながら、今までと同様に行いたい。

自立に向けた明確な意思表示を

問 町長は「新生津南の構築は揺るぎない」と述べているが、自立に向けた強い意志を表明したと受け取っているがどうか。

町長 前々から明確にしている。この考え方は変わるものではない。新生津南の構築に向け一層の協力を賜りたい。



農業に夢をたくす新規就農者

津南町の防災対策を万全に

町長：町民の防災意識の高揚に努める

●富沢 春江 議員

危惧される災害と町民の周知度は

問 今年、中越地方で発生した7・13水害は予想だに出来なかつたものと聞いている。当町においても危惧される災害とその対策は。また、町民がどの程度緊急時の対応、避難場所等、周知されていると考えるか。

町長 本年度津南町地域防災・震災対策編の見直し事務を進めている。でき次第お知らせし、町民の防災意識高揚を図り、啓蒙、避難対策を実施する。森林火災については、広大な森林を有する町として不測の事態は大惨事が懸念されるため、春先、山火事防止月間において、看板等で注意を呼びかけている。



風景ではありません、常に注意を!

温暖化防止と森林保全のために環境税創設を

問 県では森林環境税、林業

団体では全国的に温暖化対策等の創設に取り組んでいる。森林面積を多く有する当町としては積極的に働きかけて行く必要があると考えるが。

町長 環境問題の解決策の一つとして、森林の広域的機能に着目して、森林を有する自治体サイドで、平成5年度から新税創設に向け活動している。今後も機会あることに連携して要望していく。

減反0で農家所得2割増を

町長：早めの対応で地域間調整に取り組む

●根津 勝幸 議員

農家に活力の出る政策を

問 生産調整に依る減反政策を強いられている稲作農家も昨年の手上げ方式に期待をし、増収に期待をしたのであるが、実質本年度平場、中山間地平均で25%弱の減反調整となった。これは給与所得者の年俸2割5分カットと同じである。再編パイロット事業等で基盤整備がされたところでも、賦課金、償還金を払いながら休耕せざるを得ないところである。来年の作付けの事を踏まえ、減反ゼロに依る作付け、所得2割増し政策を伺う。

町長 本年度の生産調整は農家の理解と協力を得て100%達成できた。新たな米政策のなかで農業者、農業団体に主体的な手上げ方式を模索し、転作可能面積のアンケートを実施した。休耕面積390haに対し、作付け可能面積は200haであった。よって減反



雑草が生い繁る減反農地

ゼロとしても2割増しとはならない。稲作収入の増大は必要だが、複合営農の推進に努める。来年度の減反調整は早めの対応で県内、県間調整に取り組む。

町づくり基本条例、町民投票条例制定を

町長：自律推進室に検討を指示する

●藤ノ木 富有 議員

住民参加と情報の共有

問 津南の町づくりを進めるうえで、の基本理念を明文化して、住民みんなで確認し合おう。その上で、それを具体的に進めるために身の丈にあった自主的な、自前のルールをハッキリさせ、定めたのが基本条例である。自律町づくり検討委員会での制定を検討して欲しいがどうか。

町長 自律推進計画は情勢の変化に合わせて、常に見直しを行いながら計画の実現を図らないといけないので、分野別自律推進チームや検討委員会の役割を来年度以降も継続する必要があります。その中で基本条例も含め幅広く議論してい

くよう自律推進室に指示している。

問 現行制度では議会制民主主義が基本だが、直接民主主義の住民投票の活用も時と場合によっては、議会制民主主義の欠けているところ、不十分なところを補ってゆくことや、住民自治の拡充の一つの手段として条例化しておくことが、現代の多種多様な社会情勢のなかで求められている。3町村合併運動のなかで痛感したので検討委員会に図りたい。

町長 全国的には住民投票条例を制定している自治体は増えてきている。議会制民主主義のことも含め、委員会で十分議論するよう推進室に指示する。



ローカウンターでやさしく応待



金沢錦丘中学校 英語授業風景



NPO法人にぎやかに視察 理事長 坂井由佳子さん

富山型民間デイサービスは「地域密着、小規模多機能」をコンセプトにした、柔軟な介護サービスを導入していった。その一つである「NPO法人にぎやか」では、元理学療法士の坂井由佳子さんが施設長となり、お年寄りから子供、障害者までを一緒にケアする小規模で地域密着型の施設を運営しております。スタッフは12名で一日平均15人からのお年寄り、子供、障害者を受け入れています。老人だけが集まって会話だけでは、陰気になりがちです。未来に向かって伸びていく子供達も一緒にいるだけで雰囲気明るくなる。大きな施設はどこも似ているが、ここは老人や子供達が自然に生活しており、家族的で個性豊かな県産材を使った2階建てのぬくもりのある施設でありました。にぎやかに「生き



る」ことの出来る環境であり、誰もが気軽に立ち寄りやすい場所に感じました。地域密着型のビジネスとして、高齢化の進む津南町にもこうした起業家育成講座を開催することを望むものです。お年寄りも子供も障害者も一緒に共生できるデイサービス誕生で、地域経済への貢献と雇用の場の確保により、安心して住める町づくりに、もっとも必要と考えるものでした。

●委員長 草津 進

未来型福祉のかたち

総文福祉常任委員会



石川県立金沢錦丘中学校・金沢錦丘高等学校の併設型中高一貫校を視察



2004年 作況調査

改憲論議・町長の見解は

町長..9条まもるべきだが複雑な思い

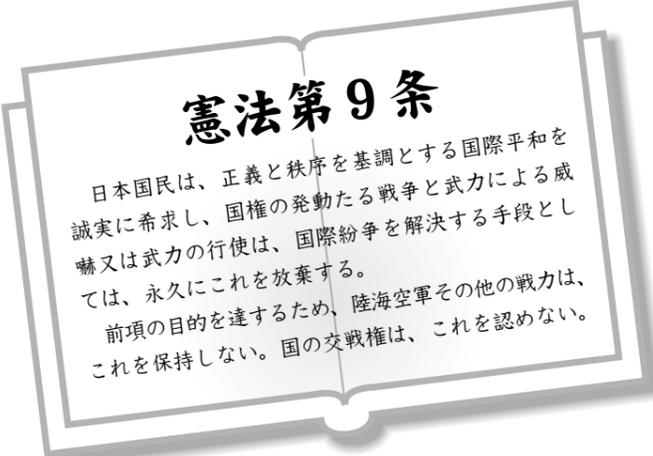
●大口 武議員

いま9条が危険になっている

問 第二次大戦でアジアで2千万人、日本で3百10万人、津南郷で700人の戦死者を出した。

小泉首相は「集団的自衛権を行使できるように憲法を改正すべきだ」と発言し、民主党岡田代表も「憲法を改正し国連決議があれば海外で武力行使ができるようにすべきだ」としている。いま恒久平和の保障がある憲法9条があぶない。改憲論議に対し、町長の見解をおたずねする。

町長 憲法9条は守るべきと思うが世界の現象や日本の現状を考えると複雑な思いだ。自衛隊は必要だと思っているがどう位置づけられるか難しい問題だ。日本がアメリカカ一边倒に従う姿勢は疑問で、我々はアジアの一員としてアジアとの交流を大事にしていかなければならない。



憲法第9条

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

憲法改正が俎上に乗ろうとしているとき、もつと論議、運動があつてよい。平和への想いを語り、平和運動を閉ざしてはならない。私は町民と共にそのような議論をまきおこしたい。我々の平和への想いを後世に伝えていきたい。

委員会視察レポート

産業建設常任委員会

バイオマスプロジェクト開発センター視察

●委員長 吉野 徹

産業建設委員会は7月21日、22日の両日管外視察を行いました。

初日は埼玉県川越市の協同商事バイオマスプロジェクト開発センターで、バイオガスによる有機性廃棄物の完結自立型再生利用無害化施設を訪問しました。

バイオガス化によるエネルギーを利用して循環型施設であり、町が検討している木質系、堆肥系の発電計画にも関連がある施設と思われまます。また、この会社は津南コシヒカリビールの製造元でもあり、現在60種類の地ビールの製造や、地元野菜の流通販売にも取り組まれており、社長自ら説明をいただき、感銘を受けた視察でありました。その後、江戸情緒が漂う町並みや伝統建造物を見学しまし

た。翌日は飯山市なべくら高原「森の家」の視察を行い、農業と観光を一体化し、自然農村体験をテーマとしたグリーンツーリズムの取り組みなどを伺いました。委員会として今後の検討課題の一つと思われるものでした。



飯山市「森の家」の視察



シリーズ・町民の声
私モひと言

「ぐうたら育児日記」

鹿渡 涌井 博子さん



40歳の誕生日を過ぎて初めての出産を経験し、そして育児の日々が始まりました。
一ヵ月までは何がなんだか。
二ヵ月過ぎても授乳で寝不足……
三ヵ月頃にアトピーらしき湿疹であわてふためき、検査のち食事制限（母体だけ）。
現在十ヵ月。這えば立て、立てば歩めの……とは言うものの、這ってどこまでも行くし、つかまって立った所は障子紙。いい音たてて破いてくれましたし、握ったものは、ゴミでも食べるし、ハラ

ハラドキドキの毎日です。
それにしてもこんな時代、どういう子育てをしたものかと思っはみるのですが悩んでいる間も子は育つもので……。ここは一つケセラセラといきましょう。
毎日が初めてのこの命。親なんて子供の人生のほんの一時期に生きてゆく為の知恵と手助けができるばかり。その今を楽しく過ごせれば後の事は又、その時に考えましょう。
心から「らぶ&びーす」。

「町へ感謝」

下日出山 山本 芳一さん



自律に向かって始動した今、希望と不安の入り混じった気持ちです。
多種多様な文化は、心豊かな生活を営む為の一部です。過疎の地域はその文化の歴史を持っている所が多いものです。時の流れでそんな地域が消えようとしています。そこで生まれ育った人、特にお年寄りも少しでも永く愛着ある場所で暮らすことを望んでいます。その願いに応えた一つが町が運行している「ひまわりバス」です。山の中

で暮らす住民には身体的ばかりでなく、精神的にも安心でき大変ありがたいと思っています。こればかりでなく、町の多くの人達の助けで私は、安全で愉快地毎日を暮らしています。
町の至るところが癒しの場で、いろいろな温泉や景色はストレスを発散させるには最適です。物騒な都会に住む人達も、この町にやって来て心優しくなって戻られたらいいのと思っています。

編集後記

子供を取り巻く悲惨な事件が後を絶ちません。栃木県で起きた幼い兄弟の殺害事件を思うと、何故、まわりの大人はこの子らを助けることができなかったのか。私は悔やまれてなりません。子どもは、地域の宝。そのことを社会がもっと意識して、子ども達をまもっていく必要があると思います。先日、新潟県母親大会に参加し、「子ども達の未来と私たちにできること」と題して分科会に出席してきました。そこでは、子育ての悩みや教育現場の現状、子育て経験などの意見交換が活発に行われました。不登校を経験した娘が、必死に学力を取り戻そうと頑張るありのままの姿を涙ながらに話されたお母さんの訴えが心に残りました。私も4人の子の母であります。子ども達があたたかい人のぬくもりを感じながら健やかに育ってくれることを親として願うばかりです。
(藤ノ木浩子)

